

# 日本所在のアラスカ／カナダ先住民由来資料と ソースコミュニティとの「再会」プロジェクト (国際交流学科・井上敏昭)

## ◆研究の目的

- ①日本の博物館等に所蔵されている北方アサバスカン由来の物質文化資料を調査し、
- ②そのソースコミュニティ（その資料が由来するコミュニティ）成員を日本に招聘して資料との「再会」を実現し、
- ③かれらと連携しながら資料に関する知見を共有して、ソースコミュニティが資料を活用できるようにするとともに、博物館にも成果をフィードバックして資料研究の向上を目指す

## ◆北方アサバスカン (Northern Athabascan)

- ▶ 北方アサバスカ諸語を母語とし内陸アラスカ～カナダ北西部を伝統的  
生活圏とする複数の先住民集団の総称  
→現在では現地語に基づき北方デネー (Northern Dene) とも称する
- ▶ 狩猟・漁労・採集社会  
→現在でも混合経済を保ち、分配を伴う狩猟採集文化を維持



北方アサバスカンの伝統的生活圏（網掛部の部分：内側の線は各民族集団の境界）  
Helm, J. (ed) 1981に基づき、発表者作成

## ◆日本所在の北方アサバスカン物質文化資料

- ①国立民族学博物館所蔵のMcKenna資料
    - 北方アサバスカン社会における最初期の人類学調査（1930年前後）で収集された資料
    - 内訳：モカシン6；手袋2；ミトン3；カバン2；写真用フレーム1；チーフコート1；スカート1
    - ほとんどが、北方アサバスカン社会の「伝統的な手法」であるビーズ（または刺しゅう）による緻密な装飾が施されている
    - 収集者Robert McKennaと日本の研究者との個人的関係を通じて国立民族学博物館に収められた
    - 受入れ後、資料に関する研究はあまり行われていなかった
    - 死の直前までMcKennaの手元に残されたもの→現地のアサバスカンたちから個人的に贈与されたものやMcKennaがかれらに製作を依頼したもの？
  - ②北海道立北方民族博物館所蔵の原ひろ子資料
    - 原ひろ子（本学客員教授）により、1960年代にヘヤー（Hare）社会で収集された資料
    - 日本の人類学者による最初の北方アサバスカン調査による成果
    - 刺しゅうやビーズによる装飾が施されたモカシン、ミトン、巾着袋などのほか、毛皮製のバッグや漁網、かんじきなどの生活用具、動物の皮革の断片などが含まれる
    - 生前、北方民族博物館に寄贈
    - 原自身の名前や製作年と思しき年号が入ったものが含まれる→原が現地の人々に教わって製作した、あるいは調査中に使用していたと考えられる
- ▶ すなわち両資料とも、調査者と現地の人々との関係性が反映されている

## ◆本プロジェクトの意義

- ▶ McKenna資料・原資料共に学術的価値＋ソースコミュニティでの高い歴史的価値も有するが、その存在がソースコミュニティにほとんど認知されていないし、収集後の詳細な資料分析も行われていない
- ▶ これらをソースコミュニティの伝統的知見と結びつけて再調査することは、日本の博物館の所蔵資料データの精緻化、資料研究の推進に寄与する
- ▶ その成果を英語/現地語を併記して公開することは、ソースコミュニティの伝統文化継承に寄与する  
→学界の社会的責務を果たし、所蔵資料を介してかれらと適切な形で協働する道を拓くことにつながる

## ◆これまでの成果

- ▶ McKenna資料の熟覧を民博で実施：うち1回は北方アサバスカン出身のVan Kampen氏によるコメントを聞き取り→博物館の収蔵記録はかなり正確であることが判明
- ▶ ソースコミュニティへの報告の準備として、McKenna資料の高精度撮影を実施（撮影：城野誠治）
- ▶ McKenna資料のソースコミュニティの一つFort Yukonの先住民政府から研究許諾を得た
- ▶ McKenna調査時の話者（調査対象者）の子孫や現役のビーズワーク製作者から調査協力の承諾を得た
- ▶ 原資料の熟覧を北方民族博物館で実施

## 文献

- Duncan, K. C. (1988). *Northern Athapaskan Art: A Beadwork Tradition*. Seattle: University of Washington Press.
- Helm, J. (ed.) (1981). *Handbook of North American Indian vol.6 Subarctic*. Washington: Smithsonian Institution.
- 井上敏昭 (1999). 「文化伝統」としてのビーズワーク アラスカ・グイッチン社会におけるビーズワークの役割とそこに見る社会的重要性に関する考察」『北海道立北方民族博物館研究紀要』第8号 31-55.
- McKenna, R. A. (1959). *The Upper Tanana Indians*. New Haven: Yale University Publications in Anthropology No.55.
- (1965). *The Chandalar Kutchin*. Montreal: Arctic Institute of North America Technical Paper 17.
- Mishler, M. and W. E. Simeone (2006). *Tanana and Chandalar The Alaska Field Journals of Robert A. McKenna*. Fairbanks: University of Alaska Press.

本研究は本学の「人を対象とする研究倫理審査」を受け承認されたうえで実施されている（承認番号：04N24005）

本研究は以下の研究助成を受けて実施されている。

- ◆ 令和6～10年度科研費基盤(B)「日本所在の北方アサバスカン物質文化資料とソースコミュニティとの「再会」」（課題番号24K00189）
- ◆ 2024～26年度 国立民族学博物館共同研究「国立民族学博物館所蔵の北方デネー（北方アサバスカン）関連資料の活用に関する研究」